

函館北ロータリークラブ会報

2014~15年度 国際ロータリー テーマ

ロータリーに輝きを

2014~15年度 国際ロータリー会長 ゲイリーC. K. ホアン

石橋輝夫 会長 テーマ “ゆっくりと、ほどほどに”

★会長 石橋輝夫 ★幹事 齋藤秀司



- ・例会場：ロワジールホテル函館 〒040-0063 函館市若松町14-10 TEL22-0111
- ・例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 事務局：函館市大手町5-10 ニチロビル4F TEL23-3870

《第2456回例会》第22号 12月17日(水)

本日のプログラム

卓話「大野中学校の総合的な学習の時間」

北斗市立大野中学校 校長 齋藤 康夫 氏

卓話「地域とかがわる力を育てる総合的な学習の時間」

北斗市立大野中学校 教諭 阿部奈央美 氏



12月10日 卓話

函館地域産業振興財団副理事長 兼
北海道立工業技術センター長 三浦 汀介 氏

2014~2015 < 第 2455 回例会 >

第 21 号 12月10日の記録

- ◎司 会 石橋 輝夫 会長
- ◎斉 唱 それでこそロータリー、四つのテスト

- ◎ビジター 函館五稜郭R.C. 上加 淳悦 君
- ◎ゲ ス ト 函館地域産業振興財団副理事長 兼
北海道立工業技術センター長
三浦 汀介 氏

- ◎会長報告 石橋 輝夫 会長
- 12月5日(金)10・11グループ第3回会長幹事会が開催されました。
・事務局の今後のあり方について話し合いました。
- 七飯RCからカレンダー市を開催するので、あまったカレンダーがあれば提供してくださいと依頼がありました。26日までに事務局へお届けください。

- ◎幹事報告 齋藤 秀司 幹事
- クリスマス家族会のお土産に例年どおりポインセチアを用意しますが、今年の家族会は24日なので事前に会員へお届けします。自宅ではなく勤務先へのお届けを希望の方はお知らせください。
- 当クラブ1月7日(水)の例会は、午後6時30分より一乃松において新年恒例会を開催いたします。
- 合同事務所は12月29日(月)から1月4日(日)までお休み致します。

- 12月25日(木)函館RC自主休会、26日(金)函館五稜郭RC移動例会に変更です。

- ◎親睦活動委員会 齋藤 秀司 委員長
ニコニコBOX投入報告
石橋会長・森会員・弗田会員・小笠原会員
……年の瀬を迎えますので皆様健康に気をつけましょう。

- ◎卓話「函館マリンバイオクラスター事業とは」
函館地域産業振興財団副理事長 兼
北海道立工業技術センター長 三浦 汀介 氏

海を知る 「計測・予測」

- 量産型ユビキタスによる水温観測網の構築
 - ・津軽海峡を中心に観測のネットワーク化が進展。
 - ・韓国沿岸、インドネシア、バリ島で試験運用中。
 - ・潮流、浮遊懸濁、塩分、クロロフィルが計測可能な多機能ブイの商品化を目指す。
- 可視化タブレット(Marine Scanner)の開発
 - ・現場ニーズに基づき必要な海洋情報を直感的に理解できるユビキタス端末を開発
- 水産海洋GISシステムの一部の試験運用開始
 - ・3日先までのスルメイカ漁場予測マップの提供を水産海洋GIS上で開始。
 - ・ホタテやコンブ類の最適再成海域選択モデルなど各モデルの改良を進めている。





ユビキタス観測網 可視化タブレット(Marine Scanner)の画面 スルメイカ漁場予測(2013年7月1日~7月28日)

資源を育てる 「持続的生産」

■有望な北方地域資源としてウガノモク、ダルスの可能性に注目
 ・「フコキサンチン」を高濃度に含有しハタハタなどの産卵場となるウガノモク、未利用で資源量豊富な紅ダツダの様々な特性を把握、有効活用へ。

■産業利用のための基本的な安全性を確認
 ・ウガノモク、ダルスの食品としての基本的な安全性試験を終了。
 ・津軽海峡、噴火帯の代表的海藻について放射性物質調査を終了。

■新たなイベントのクラスター化への取組
 青函トンネル湧水利用の種島町など、チョウザメ飼育・事業化への動きが各地で進展。
 ・道が国の補助を受けて幼体移植式場圃建設法MOASISを採用し、森町ハタハタ産卵場造成事業として約500基の産卵場ブロックを設置し、ウガノモク群落を造成中。

これからの経済システム

- 現在、進められている**函館マリンバイオクラスター**を例に説明すると、これからは、持続的な地域産業の育成を図る事業が必要。
- 海の多様性に配慮し、資源をうまく管理することで、毎年一定量の収穫が見込める資源を最高度に活用する産業クラスターで、地域産業への貢献を強く意図した新しい**産業モデル**。
- 中核技術には、**ブルーエコノミー**で述べられている持続性の高い技術が活かされる。

Concept

素材をつくる 「高機能化」

■フコキサンチン含有食用素材の商品化
 ・函館産アカマク由来の液状素材を活用して、地域企業がサプリメントとして販売開始。
 ・「るもいこホトピア」で予備的なヒト入試を実施、本格的なヒト入試
 ・粉末素材の製品化についても検討継続中。

■バイオポリマー素材の特性向上と商品開発
 ・バイオポリマーを応用した発光性・保湿度安定性のあるスキンケア製品などを海外展開中。
 ・国内については日本美容外科学会(JSAS)の協力により臨床治験データを収集予定。

■ホタテ貝殻燐光体の特性向上と製品開発
 ・サンプル提供可能な試作規模となり、食品及び医薬品添加物の成分規格への適合を確認。
 ・2種類の貝殻カルシウム剤を混合し、新たな蛍光色を作成。

函館における世界的水産・海洋都市創生の枠組み

I. 達成される到達点の概念:

- 函館が**世界的水産・海洋都市**のリーダーとして国内外からベンチマークされる地域となること
- 到達点のイメージは、経済、社会、環境、人間に恵まれた地域で、
- 住民が、どこに住むことに幸せを感じ、どこに住むに願う地域 であることと確信できるものとなる

II. システム構成:

- 基本は、人・物・産業・文化からなる**内生的自立**に根拠を置く
- また、**地域間連携**によるシステムの補完・強化を図る
- さらに、**地域リーダー**の育成を図るに地域特化の**人材**を投入も重要な要素

III. 必要な技術:

- 世界的水産・海洋都市の創生を支援する技術で、
- それらは物質・エネルギーの面で**持続可能性**を向上させるもので、
- さらに、人々の**ライフスタイル**を豊かにする技術である

図1. 世界的水産・海洋都市の創生

函館マリンバイオクラスター
 地域イノベーションクラスタープログラム (グローバル型)

商品力をつける 「ブランド形成」

■鮮度評価技術を活用したマコンプの生鮮利用・凍結保存など新流通形態への取組
 ・春採りコンプの特長を活かしたサラダ感覚で食べられる素材として利用が拡大。

■高品質化技術を活用した製品開発
 ・成分析出促進、メイラード反応利用、繊維強度や食感の設計などを海藻に適用した製品開発。

■食品の安全性と信頼性を保証する技術開発の進展
 ・多様な食品に対応可能なFISHFO多重量光スペクトル分析システムを開発。 農水省事業で提供
 ・マコンプ産地別技術(独)農林水産消費安全技術センターでH26採用予定、判別キット製品化検討。

■品質の良さを伝える水産物情報提供システムの開発
 ・生産者と消費者・自治体団体等を、生産物に関する話題と情報で結ぶソーシャルネットを開発。
 ・漁獲場所からのトレーサを可能とした簡易トレーサビリティを実現。

産地	DNA分析によるマコンプの産地判別
日本	100% (20/20)
中国	85.5% (17/20)
韓国	84.7% (17/20)

地域社会の発展の姿を次のように結論づけたい。

「これからの時代は、地域が、各々が工夫して、社会的にも経済的にも**自律**していく。そして地域自らが主体的に**地域経営**を実践する時代が来た。つまり、地域は、それぞれ固有の持続可能な**地域資源**を最大限に活用することで得られる**経済的豊かさ**を基盤に、質の高い**ライフスタイル**を享受する。」

その、基本デマンドは**エコノミー、エコロジー、エシックス**で、この三つがこれからの21世紀社会の基本的デマンドになる。

従って、**地域経営**は

- ① エコノミーでは、効率化、合理化**マキシマム**な経営を、
- ② エコロジーでは、環境負荷**ミニマム**な経営を、
- ③ エシックスでは、地域活動**オプティマム**な経営にする。

(会報担当者：増山 正 委員)

医療法人社団 藤 紀 会

さいとう内科循環器内科医院

院長 齊藤 紀一

函館市万代町1-13(グルメシティ万代店横)
 TEL(0138) 45-1118(代)

(広告掲載：齊藤 紀一 会員)

◎11月22日出席報告 (小河 博保 委員長)

会員	21名	出席率対象会員	21名
		出席規定免除会員(a)	0名
		出席規定免除会員(b)	0名
当日出席	13名	当日欠席	8名
他クラブ出席	5名	出席合計	18名
出席率		85.71%	

次回のプログラム

平成26年12月24日(水)

クリスマス家族会

於 ロワジールホテル函館 午後6時30分～

テレフォンサービス(例会移動案内) 電話 26-3170番